

活動テーマ

伝統行事や郷土食と農作業を通したふるさと支援

秩父市旧吉田町地区 十文字学園女子大学

1 活動目的

旧吉田町地区は、秩父市内でも住民の減少が顕著で、冬と夏の寒暖差の激しい山間部の地区である。地区住民との交流を通して、生活環境である食生活とその周辺を伺い、先人の食生活の知恵を学び、一方で次世代に郷土の食を伝承するための記録を残すことを活動目的とする。

2 活動地域の現状

石間、太田部はともに秩父市旧吉田町の集落で、平成17年の合併により秩父市となった。平成27年1月1日現在の人口は石間280人、太田部35人であったが、平成31年2月1日では石間228人、太田部26人と4年間の人口減少率は20～25%と顕著である。人口減は若年者層の減少が高いが、高齢者が多いため自然減（出生数が死亡数を下回る）も目立っており、過疎化が進んでいる地区である。

3 活動内容

1) 端午の節句（旧暦）の行事食の手伝い 5月24日

トチの木の若葉が出る（旧暦の端午の節句）頃に、トチの葉を2枚重ね、米と小豆を包んで煮る「つとっこ」を一緒に作り、食べ方なども伺った。トチの葉で包んだ後に、わらで結び、米が飛び出ないように整えるコツを教えていただいた。「つつっこ」と呼ぶ地区もあり、嫁ぎ先と異なるなどを聞き書きした。

2) 石間地区の高齢者の方々との交流 6月23日

旧吉田町の地形や自然環境、農産物と郷土料理や行事食などについて、80歳以上のKさんから嫁いだ頃の様子を伺った。事前に「食」に関わる内容をお伺いする事をお伝えしたので、「つとっこ」も準備していただいた。野菜の栽培についても色々ご指導いただいた。



3) 石間地区の方々との交流および散策 8月4～5日

石間地区の周辺を散策し、昔ながらの硬めの豆腐のA商店、近年始められたワイナリー、まだ青い小さな柚子の実など、食生活の様子を確認した。



4) 太田部十八神社祭りと「太田部を考える会総会」に参加 10月7日

昨年に引き続き、卒業生も加わって踊りの披露ができた。

5) カレンダー「ちちぶの自然と食」の制作 10月7日～11月30日

取材した郷土料理に関するデータを整理し、料理の写真やレシピに分けて作業計画を立てた。さらに、カレンダーのレイアウトを考え、編集作業を行った。印刷に向けて、業者の方と打ち合わせも行った。

6) カレンダー「ちちぶの自然と食」の報告 12月19日

旧吉田町の方々に仕上がったカレンダーを持参、お届けした。

4 成果

1) トチの木は、若葉を利用して保存性のある「つとっこ」を作り、トチの実は灰汁（あく）し、乾燥、蒸すなどの手間をかけて「栃餅」にしていた。「つとっこ」を一緒に作ることができた。小麦粉、とうもろこし粉を利用した「たらし焼き」、「もろこし饅頭」が作られ、「たらし焼き」は加える野菜類が家により様々で、各家庭の味があった。渋柿は加工して干し柿や塩柿としていた。

2) 気温の寒暖差は大きいですが、食生活の中で工夫があった。暑い夏に涼しく過ごす食の工夫として、「冷汁」「梅干しと砂糖」などの料理が継承されていた。また、夏の高温を利用した「すまんじゅう」は、温度管理が難しいことから最近では作られることが少なくなった。

3) カレンダー「ちちぶの自然と食」を制作しながら、旧吉田地区の方々の食生活の知恵を学び、次世代に郷土の食を伝承するための記録を6ページの見開きに残すことができた。

5 課題

情報系と食物栄養系の2学科で構成した活動のため、各専門性を活かした内容の成果物が得られたが、2学科の学生生活が異なるために活動においては日程調整などに困難が生じ、計画を早めにしっかり立てることが求められていた。また、天候等が活動内容に大きく影響することが今年度の課題となった。

6 次年度以降の計画

継続 4 年目で、秩父市旧吉田町地区は終了年した。